

巻頭言



「第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会（静岡大会）の開催に向けて」

関東ブロック老人福祉施設研究総会実行委員会副委員長 池田 達哉

皆様のご支援により、昨年で静岡県高齢者福祉研究大会の開催は第10回を数えました。例年、1,000人近いご参加を頂き、72施設が多種多様なテーマで研究発表を繰り広げるこの大会は、会員施設の皆様の介護に対する熱意を強く感じられるものであり、静岡県の介護サービスの質の向上に繋がっていると思います。大会運営に対する皆様の多大なるご理解とご協力に、あらためて感謝を申し上げます。

さて、その静岡県高齢者福祉研究大会に代わって、関東ブロック老人福祉施設研究総会（関東甲信越静（1都10県4市）において開催）が、本年この静岡にて開催されます。

昨年に千葉で開催された研究総会を視察してきましたが、そこには介護の未来を真剣に考える1,300人の参加者が集い、熱気にあふれていました。分科会では介護ロボットの活用や地域の買い物支援、外国人雇用など、先進的な取り組みがいくつも発表されており、また介護機器展示では30社を超える様々なジャンルの企業が並び、見守りセンサーや記録支援システムなど、

今話題の機器を手にとって体験することが出来ました。

私たちを取り巻く環境は年々変化を続け、介護サービスの向上のみならず、人材確保、処遇改善、災害対策、ICTの活用、地域連携など、職員の働く環境や社会福祉法人としての役割に至るまで、目の前にはありとあらゆる課題が山積しています。今年静岡で開催を予定している本大会でも、これらの様々な課題に対して各地で実践されてきた取り組みが発表されるでしょう。私たちがそれらを共有することで、困難な課題を解決するためのヒントやアイデアが生まれる貴重な機会となることを望みます。

本大会の成功に向けては、会員施設の皆様のご理解とご支援が不可欠です。また、当日は数百名の皆様にサポートスタッフとしてご協力をお願いする予定です。静岡から全国へ、介護の魅力を発信する大会となるよう、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

（こもれば施設長）

第55回 関東ブロック老人福祉施設研究総会 静岡大会 開催へ

昨年9月11日～12日に千葉県幕張メッセ国際会議場で開催された第54回関東ブロック老人福祉施設研究総会において、千葉県から次期開催県となる石川三義静岡県老施協会長へミッキー＆ミニーマウスが贈呈され、第55回大会開催に向けて引き継ぎが行われました。



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」登壇

第54回関東ブロック老人福祉施設研究総会分科会研究発表体験記

関東ブロック老人福祉施設研究総会に参加して

特別養護老人ホーム 和合愛光園 澤口潔美 森島絢子

9月11、12日に千葉県の幕張メッセ国際会議場で行われた、第54回関東ブロック老人福祉施設研究総会に参加し『とろみの使用基準統一に向けて』の演題で研究発表をしました。日本摂食嚥下リハビリテーション学会の「学会分類2013（とろみ）早見表」を用い、施設内だけでなく、ショートステイ、デイサービス、地域など、異なる機関においてひとりひとりに同じ濃度で水分提供が出来る事を目的としたものです。大勢の前での発表は緊張しましたが、良い経験になりました。

また、他施設の研究発表をきくことで、皆さんの頑張を感じ、自身の仕事のモチベーションアップにも繋がりました。改めて今後より良い食事の提供を目指

して取り組もうと決意しました。

講演会では『これから求められるKAIGOとは』『20年、30年後の社会福祉法人の機能・役割を探る』というテーマでお話をいただきました。現状の仕事に専念する毎日ですが、未来を見据えて働く必要性も実感しました。

今年の関東ブロック大会は本県（静岡県）で開催されます。是非とも皆さんで盛り上げていきましょう。



研究総会から学び、今後の力へ

社会福祉法人 春風会 プレーグおおひとショートステイ 鈴木由祐 神蔵 操

私たち春風会では法人内の各施設・部署・部門において研究活動に取り組み、毎年それぞれの施設及び法人全体で研究発表会を実施しています。研究発表会では、様々な視点からの研究活動の報告がなされ、職員は刺激を受け、業務に活かしています。

この度、関東ブロックの研究総会に発表施設として参加させていただき、自分たちの研究を聞いていただける機会と関東地域の多くの施設の研究を聞ける機会を与えていただき、自法人の研究発表会以上に多くの刺激を受けることができました。

自分たちの研究の発表では、聞いてくれる皆様に内容や思いをより理解していただく為、時間内にわかりやすくまとめ、抑揚をつけて話すことを心がけました。自分たちの研究での、成功例や失敗例、改善点など聞

いていただき、施設入居者・利用者へのサービス向上に少しでも貢献できたらと考えています。

また、他施設の研究を聞くことで、自分たちでは考えもしなかった取り組みや行き詰っていた事柄を打破するような取り組みを聞くことができ、サービス向上と共に介護力向上の参考になりました。

今後もこの機会に学んだことを糧に、入居者・利用者のより良い生活提供や働きやすい職場づくりに努めていきたいと思えます。

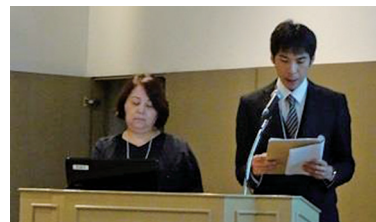


日頃の取り組みが形となり評価された喜び

特別養護老人ホーム ふじトピア 福原隆行 内村宣子

千葉県の幕張メッセ国際会議場で行われた第54回関東ブロック老人福祉施設研究総会分科会で発表の機会をいただきました。他の施設の発表はとてもわかりやすく構成され、内容も質の高いものでした。そのため発表前の時間は当施設の発表内容はどう評価されるだろうかと不安と緊張で一杯でした。私達は、「わが地域の在宅医療介護連携の取り組み」というテーマで発表しました。発表の際は大勢の方々に前に緊張の20分間でしたが、自分たちがやってきた活動を聞いていただくことができた貴重な時間になりました。また、大会終了後には感想や質問をしてくださる方もいて、興

味を持って聞いていただけたことを嬉しく思いました。その後、全国老人福祉施設研究会北海道会議への推薦もいただき、大変光栄なことと感じております。大会では日常業務にはない様々な刺激を受け、充実したかけがえのない経験となりました。関係者の皆様には心より感謝申し上げます。この経験を活かし、今後一層高齢者のより良い支援に尽力したいと思います。



特集1

介護現場における
人材に関する実態調査について

企画経営委員会委員長

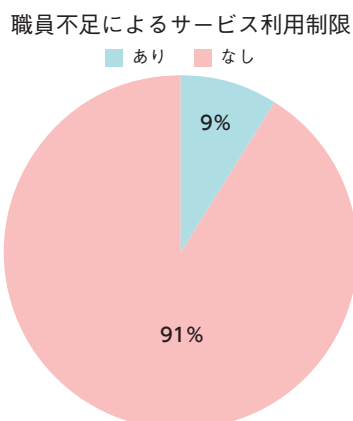
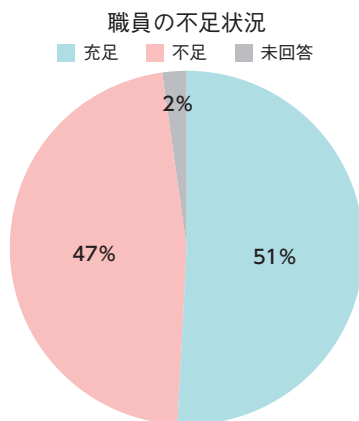
大塚 芳正

企画経営委員会では、今年度会長の意向も踏まえ、全国的に課題となっている介護職員の不足の状況を調査することとしました。この調査結果をもとに8月に県当局との懇談会に臨み関連する要望を提出する予定でした。懇談会で説得力をもたすためには、エビデンス（データ）が必要との考え方からです。また、例年10月あたりの懇談会を早めたのは、次年度予算要求に間に合わせるためです。結果として集計が遅れ、懇談会には結果集計が間に合いませんでしたが、概略を県に伝えることができ、逼迫した介護人材不足の状況を共有できました。

実態調査報告書は今年度12月に各会員施設に配布しました。以下、その概略を4点にまとめて述べます。なお、報告書と掲載順は異なります。

1. 全般的な職員の不足状況について

職員不足を訴えている事業所は、46.9%（179/382事業所数）であり、半数近くの事業所が職員不足の状況でした。



2. 職員不足によるサービス利用制限について

職員不足によるサービス利用制限をしている事業所は、9.4%（36/382事業所数）と想定以上に多い事業所数でした。特に、中部地区は17.2%であり、東部地区の6.3%及び西部地区の7.2%の倍以上の割合でサービス利用制限をしており、地域間格差が大きいと考えられました。また、開設から3年未満の事業所でのサービス利用制限は54.5%（6/11事業所数）にものほり、介護人材不足が顕著です。

3. 職員が不足する職種について

職員が不足している事業所では、不足人数は介護職が平均2.6人、看護職は平均0.3人、その他職は0.2人で、圧倒的に介護職が不足していました。また、その他職の内訳をみると特に調理員の不足があり、委託給食費が増加傾向にあることが推測されました。

4. 現にサービス利用制限を行っている個別の状況について

特養で14事業所が5%～45%のサービス利用制限をしていました。多いところでは、80人定員のところ、受入上限44人としていました。また、ショートステイでは13事業所がサービス利用制限をしており、そのうち全面的な制限が3事業所ありました。その他、特養・ショート併設事業所、ケアハウス、デイサービスでのサービス利用制限が1事業所ずつありました。

まとめ

介護現場で想定以上の介護職員の不足が発生しており、そのためにサービス利用制限に至っている事業所が1割近くにものほり、深刻な状況が浮き彫りになりました。特に、中部地区に多く、さらに開設3年未満の事業所では甚だしい状況でした。

会員各施設においては、特養等の介護事業所の新設計画に係る各市町との折衝にあたり、このデータを有効活用していただけるとありがたいと考えます。

（すどの杜施設長）



特 集 2

平成30年度特別養護老人ホーム
待機・入所状況調査について

特養委員会副委員長

山 本 隆 弘

今年度7月に特養委員会では、報酬改定に伴う加算取得調査と特別養護老人ホーム待機・入所状況調査を行いました。会員の皆様にはお忙しい中、複数の調査にご協力をいただきありがとうございました。

待機・入所状況調査は、特養会員210施設の内、従来型85施設、ユニット型85施設、混在型24施設、計194施設（回答率92.4%）から回答をいただきました。

今回の調査目的は、特養入所が原則要介護3以上になったことの影響に加え、特例入所の状況や施設整備が進む中での待機者の状況を調査し、行政等との話合いに活用することでした。

待機者の今後の推移について伺った結果、「減少していく」と回答された施設は150施設で全体の77%でした。その理由を複数回答可で伺った結果、「他の高齢者施設の整備が増えたため」133施設（47%）が最も多く、「入所対象が原則要介護3以上になったため」116施設（41%）が続き、入所要件の変更よりも施設整備の影響を深刻に受け止めている施設が多いことが分かりました。

昨年度1年間の空き定員に対する待機者の状況について伺ったところ、全体では「空き定員を満たすのに十分な待機者がいる」又は「概ね確保できている」と回答された施設130施設（67%）、「不足気味である」又は「全く不足している」と回答された施設63施設（32%）という結果でした。地域別に集計した結果、「待機者は十分又は概ね確保できている」と回答された施設の割合は、東部82%、中部（静岡市外）77%、静岡市内71%、西部（浜松市外）59%、浜松市内42%と地域差が目立ちました。特に、浜松市内は「不足気味」と回答される割合が最も多く（42%）、「不足気味」「全く不足している」の合計は58%、「十分に待機者がいる」「概ね確保できている」の合計を上回っています。これは浜松市が急速に進めてきた施設整備計画も影響していると推察されます。

昨年度1年間の待機者のうち、「すぐにでも入所したい」又は「半年以内に入所したい」と希望された方を対象にして、実際に入所をどの程度待っていただいたのか伺った結果、「長い間待たせている」と回答された割合は、東部53%、中部（静岡市外）45%、静岡市内44%、西部（浜松市外）29%、浜松市内16%。「それほど待機せずにほとんどの方が入所できている」と回答された割合は、東部41%、中部（静岡市外）41%、静岡市内35%、西部（浜松市外）56%、浜松市内61%となり、上記の質問との関連がうかがえます。

特例入所について、「実績がある」又は「検討中のケースがある」と回答された施設は116（全体の60%）でしたが、東部55%、中部（静岡市外）27%、静岡市内65%、西部（浜松市外）71%、浜松市内74%とバラツキがある結果となりました。

今回の調査は、地域ごとの特徴を把握した上での対応が必要不可欠であることを印象づける結果となりました。調査結果の詳細は、既に冊子として配付しましたので改めてご覧ください。今後ともよろしくお願いいたします。

（浜松十字の園施設長）



特集3

「静岡県働きやすい介護職場認証制度」について ～「働きやすい職場」と「安心して就職できる職場」の“見える化”～



静岡県健康福祉部福祉長寿局長

山内 章司

介護人材の確保が喫緊の課題となっている中、県では、「職場定着」「新規就業」「介護職への理解」の促進という3本の柱により取組を進めています。これらに共通するのは「働きやすい職場」づくりであり、取組の鍵になるといえます。

そこで、「働きやすい職場」づくりを支援する取組のうち、国に先んじて本年度10月に創設した「静岡県働きやすい介護職場認証制度」について御紹介します。

○認証制度の目的

この制度は、人材育成や労働環境の改善などの取組に係る基準を充足している介護事業所を認証し、公表するもので、長く働き続けることのできる「働きやすい職場」、また、「安心して就職できる職場」であることを、介護職員やこれから介護の仕事に就こうとする方々を含めて、広く県民の皆様にご覧いただくものです。

介護職員が働きやすさを実感できる職場であることは、これから介護の仕事に従事しようとする方々にとっても、「安心して就職できる職場」の手がかりになります。

○認証区分・項目

認証の審査は、事業所単位で下表の3区分・14項目について行います。

区 分	項 目
キャリアパス制度・人材育成の推進	キャリアパスの導入
	給与体系の整備
	人材育成計画
	資格取得支援
	評価制度・面談
サービスの質の向上	運営方針の周知
	利用者、家族からの相談苦情対応
	家族、地域との交流（連携）
	質の高い取組
労働環境の改善 (ワークライフバランス)	育児・介護を両立できる取組の実施
	労働時間縮減・休暇取得推進の取組
	復職・継続勤務支援の取組
	健康管理の取組
	職員の福利厚生制度

○認証を受けるメリット

- ・県ホームページ等で公表されることで、「認証事業所」として広くアピールできます。
⇒介護の仕事に就こうとする方に対する認知度が高まり、就職フェアや就職説明会等で積極的な情報発信ができます。
- ・認証基準を満たす取組の成果として労働環境の改善が図られ、職員の職場定着につながります。
- ・質の高いサービスを提供している介護事業所であることが広く認知され、サービス利用者から選ばれる事業所になります。

また、県では、認証制度に先立ち、「静岡県優良介護事業所表彰制度」(知事褒賞)を昨年度創設しました。介護人材の確保や介護サービスの質の向上に向け、働きやすく、働きがいのある職場づくりや利用者本位のサービス提供に積極的に取り組む事業所を、「職場環境改善部門」と「サービスの質向上部門」の2部門で表彰しているところです。平成31年度も実施しますので、積極的に御応募ください。自薦・他薦は問いません。

県では、引き続き、様々な事業により、働きやすい介護職場づくりを支援してまいりますので、今後とも、御理解と御協力をお願い申し上げます。



平成30年度 優良介護事業所表彰式（平成30年9月16日）

お問い合わせ

静岡県介護保険課

電話054-221-2084

電子メールkaigohoken@pref.shizuoka.lg.jp

新人職員紹介

どうぞよろしくお願いします

かわせみ

(清水町)

- ① 中村清華（介護福祉士）
- ② ケータイを最新機種（iPhoneXs）にできたこと
- ③ 沢尻エリカ
- ④ 国内旅行（北海道）に行く！
- ⑤ 現場の意見がもっと反映される職場
- ⑥ 施設を見学した際の雰囲気良かった。求人票の条件が良かった（大事）



すどの杜

(富士市)

- ① 佐藤瑠美（介護職員）
- ② 好きなアーティストのライブに行ったこと
- ③ 二宮和也（嵐）
- ④ 奨学金を返す、貯金
- ⑤ 利用者様の笑顔が溢れる施設
- ⑥ 説明会で初めて福祉業界に触れ、働いてみたいと思ったから。



白扇閣

(静岡市)

- ① 長嶋輝斗（介護職員）
- ② 一年目なのに、たくさんボーナスをいただいたこと。
- ③ 平野紫耀（キンプリ）
- ④ 家を建てる 駐車場経営
- ⑤ 入居者の立場になって考えられる優しい職場
- ⑥ 施設の規模が大きく、設備が整っている。職員が明るくここで働きたいと思いました。



巴の園

(静岡市)

- ① 山本紗羅（介護員）
- ② EXILE LIVEに行ったこと
- ③ EXILE（LDHグループ全般）
- ④ 中目黒LDH事務所近くに家を建てて友達呼んで盛大なパーティーをする
- ⑤ 笑顔がいっぱいの楽しい職場
- ⑥ フロアの雰囲気、職員方の関係性がいい事



芳川の里

(浜松市)

- ① 中嶋仁美（居宅介護支援専門員）
- ② 九州で明太子をたくさん食べたこと。
- ③ 松田宣浩
- ④ 親戚みんなで旅行に行く。
- ⑤ アクティビティや日中ケアなど何かに特化した職場。
- ⑥ よく話し合う職場だと思ったから。



第二長上苑

(浜松市)

- ① 川崎拓巳（介護職員）
- ② 入居様が自分の名前を覚えて下さっていること
- ③ ボルト選手
- ④ 貯金します
- ⑤ 入居様が安心して暮らせる施設
- ⑥ 実習に来た際に、入居様や職員間の関係がとてもいいと感じたから



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

静岡県老施協西部支部の活動紹介

台風24号に係る被害

特別養護老人ホーム灯光園 施設長 澤 島 久美子

台風24号が静岡県上空で暴れた平成30年9月30日夜、私は自宅の2階で眠れず、風の音の激しさに驚いていました。23時過ぎ、御前崎市内で電気が止まりました。後でニュースを見ると御前崎では風速32メートルの瞬間風速を確認したそうです。我が家のベランダもベリベリと音をたて吹き飛びました。

灯光園でも停電。非常用発電機が動き出し、とりあえずの電気は確保できたと思いました。ところが翌10月1日の8時30分、発電機が止まってしまいました。再度の停電。メーカーの人が東京から修理に来てくれるのを待つしかありません。ポンプが動かないので水も使えません。小型の発電機2台が動いたのでベッドはOK、充電式吸引器は便利でした。

停電1日目、朝食はパン食なのでそのままいけました。昼食から、アルファ化米のおにぎり作りが始まりました。水はユニットに500ccのペットボトルの箱が配られていたので入居の皆さんはユニット毎のカセットコンロで簡単な煮炊きができました。真空調理をしているのでいくらかのおかずは袋のまま温めることができました。

困ったのは洗濯でした。尿汚染のものは節約中の水で下洗いをしてから、コインランドリーに持って行きました。少し肩身の狭い思いです。先に電気の通じた東海清風園の園長さんから

「洗濯場をどうぞ」という電話を頂き、3日目に洗濯機と乾燥機を使わせてもらうことができました。助けていただきました。

3日目の午後、非常用発電機が直りました。冷却水を回すベルトがたわんでいたのと、エンジンオイルが古くなっていました。点検はしていましたが、実際に使えなかったのは大変残念です。

3日目深夜、灯光園近くの電信柱に工事用の車が止まり、名古屋から援軍にきた工事の人たちが修理をしてくれ、4日目から正常に電気がつきました。塩害でした。デイスサービスは敷地内の電柱を直すのにもう1日遅れ、5日目から営業再開でした。

個室は、置くことも吊り下げることのできるランタン型の電燈が便利でした。お年寄りは明るくなったら起き、暗くなったら眠る生活をあまり苦にしないようでした。

地域全体が真っ暗になるブラックアウト3日の経験は初めてでした。いくつもの場面を想定して事前の準備を怠らないこと。経験を今後に生かします。



「介護の日」街頭啓発活動について

特別養護老人ホーム 第二長上苑
生活相談員 金 原 俊 司

今回で2回目となる「介護の日」街頭啓発活動への参加ですが、実は主旨をしっかりと理解して参加している訳ではありませんでした。たまたま、しず老施協の原稿依頼を受けていたこともあり、参加前に「介護の日」について調べてみました。インターネットで検索してみると厚生労働省のホームページがヒットし、「介護の日」誕生についての経緯が詳しく書かれていました。皆さんは既に御存知だとは思いますが、「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとぅ」から11月11日が決まったことや、この日が“高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日”であることが分かりました。また他に「介護ささえあいの日」、「介護感謝の日」や11月15日（いいかいご）などの候補があった事に感心させられました。

今回は事前に「介護の日」について調べておいたため、しっかりとした視点を持って街頭啓発活動に参加できました。当日は朝から悪天候で、しかも予定開始時刻は大雨との予報でしたが、実際には小雨程度で、活動には全く支障がありませんでした。集合場所のJR浜松駅北口には西部支部役員・職員合わせて57名が集まりました。まず静岡県老施協西部支部の種岡養一支部長より主旨説明があり、その後準備されたバンドエイド・カラーメッシュケースセット2,000セットが参加者に分けられて、駅北・バスターミナルへと散らばって行きました。私も「介

護の日よろしく願います。」と道行く人々に声をかけながら手渡して行きました。中には「介護の日って何？」と声を掛けられる方もいましたが、そんな方には今回事前に得ていた知識で、説明できました。

初めは通りかかる全ての人に声をかけていたのですが、介護に携わった経験が少なそうな若い方（特に学生さん）にはあまり反応してもらえませんでした。逆に年配の方からは、「お疲れ様」「がんばるね」といった励ましの言葉もいただき、介護についての関心、理解を実感しました。40分程度で全員が配り終えて、最後に集合写真を撮って街頭啓発活動は終了しました。

傍から見れば「ただメッシュケースを配るだけ」の活動に見えるかもしれませんが、また「何のためにやっているの」と思う人もいるかもしれませんが、この街頭啓発活動が、介護・福祉の現状を世に広めていくきっかけとなり、介護について考える機会となれば十分に意味のある活動と思いました。



稔りある未来を目差して 21世紀委員会の挑戦！



21世紀委員会委員長
木下 晋一

人生百年時代（2019年現在、小学3年生の平均寿命は108歳）を迎え、介護分野においても、超高齢化、社会保障の支え手の減少を見据え健康寿命の延伸を目指した予防・健康づくりや働き方改革による生産性向上等、サービスの質と量の双方への革新的な介護施策の展開が期待される中で、我々が目指すべき社会の実現には、介護を支える当事者世代と未来を切り拓く担い手となる学生世代の福祉、介護職への就労意識の向上が不可欠であると思われていますが、深刻な介護人材の不足は、益々加速の一途を辿っています（2025年問題等）。

そうした現状を踏まえ、21世紀委員会では、一人でも多くの学生が福祉、介護職就業への意識が高まる様に、4年前より単位取得可能な授業の一環として【学生セミナー】（講師講演・

パネルディスカッション等）を大学、短大、専門学校、高等学校（今年度より中学校も）で実施しています。

質疑応答では一部マスコミ報道の偏った負の就労イメージを拂拭すべく、1～10年目の給与は幾らになるのか？介護職でも彼氏・彼女はできるのか？結婚できるのか？出産、子育て？住宅ローンは？など「学生が本当に知りたい事に答える」を実践しています。若手職員が実際の経験を、伝えることで、福祉・介護への、親近感、信頼度の向上を図ると共に、各施設が行う介護の質の高さ、社会福祉の従事者としての遣り甲斐と誇りを知って貰い、学生の就業意識を高め、稔ある未来を迎えられるように、21世紀委員会は挑戦し続けます。

（玉沢昭寿園施設長心得）

特養委員会の活動紹介



特養委員会委員長
宮島 克利

特養委員会では、今年度から委員が主に調査班と研修班に分かれて活動を進めております。調査班では、まず今年4月から介護報酬が改定されたことに伴い加算取得等の状況調査を実施致しました。調査結果で特徴的でしたのは排せつ支援加算や褥瘡マネジメント加算など新設された加算について2割程度と算定施設が少なかったことです。ただ未算定施設の内4割以上の施設は、今後算定の意向があるとの回答でした。そこで、本調査の第2弾として加算等に対し相談等についていただける施設を調査し、「相談対応（情報提供等）が可能な施設一覧」としてまとめました。加算や体制ごとに相談可能な施設名や担当者などの連絡先が記載してありますので、相談を希望される施設は直接ご連絡をいただき、双方で情報交換等をして頂けた

らと思います。また、例年に引き続き特養の待機者状況や入所者及び特例入所の状況についても調査を実施致しました。今後、こうした調査資料が行政等との話し合いなどにも活かされたいと思います。会員の皆様には大変お忙しい中これらの調査にご協力をいただきありがとうございました。

研修班では、会員施設から調査の一環で意見や要望等をあげていただいたところ、最も多かった人材確保の課題について、特に職場定着について意見交換など研修を行うこととなりました。2019年2月27日（水）静岡県総合社会福祉会館703会議室にて、淑徳大学教授の結城康博先生を講師にお招きして開催いたします。介護職員の職場定着に向け、皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。（御殿場十字の園施設長）

40年の歴史、毎年実施、 軽費委員会の施設長視察研修



軽費委員会委員長
木下 朝子

軽費老人ホームは、老人福祉施設として社会に欠かせない役割を担っているにもかかわらず、介護保険法によるサービスが高齢者福祉の趨勢で、特養重視の中、軽費老人ホームの存在意義が失われがちですが、介護保険対象外の高齢者でも、精神障害、生活困窮、社会的孤立等、多様な課題を抱え、居宅での生活が困難な低所得高齢者等の方々に対して低額な料金による住まいの提供と、生活支援を併せて行う事が出来る軽費老人ホームは今後も重要な役割を果たしていくと思われています。

そこで、軽費老人ホームが様々な問題を抱える高齢者に適切な支援を行う為に如何にしたらいかを先進施設に学ぶ為、40年前にA型6施設で発足した当初から毎年、施設長視察研修を行って来ましたが、今年度は、5月に鹿児島県の社会福祉法人「野の花会」を視察しました。「野の花会」は昭和62年に設立され

「福祉文化の創造」を理念に掲げ、鹿児島市内にあるケアタウン「アルテンハイム鹿児島」は、ユニット型特養、ショートステイ、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、有料老人ホーム、グループホームが併設されています。科学的根拠のある質の高いケアを目指していて、コミュニケーションロボット「パルロ」、介護ロボット「HAL」、見守りセンサー「ネオスケア」等を導入されていました。その後、吉井理事長のご案内でケアタウン「カサブランカ」も見学致しました。早くから外国人雇用も実施され、社会福祉法人の「自主的な経営基盤の強化」「福祉サービスの質の向上」を学ぶ機会となりました。

軽費委員会は、高齢者の切実なニーズに対応すべく先進的な知識・技術を学んで、福祉サービスの向上に励んで参りますので今後共ご協力をお願い致します。（玉沢昭寿園施設長）

「県外研修に参加して」



研修委員会委員長 及川 ゆりこ

平成30年10月19日、20日の1泊2日の県外研修に参加しました。

今回は、京都市にお邪魔しました。主なテーマは、「きょうと福祉人材育成認証制度」について見聞を広げてくることでした。

1日目の「社会福祉法人同和園」では、常務理事で、養護老人ホーム園長の橋本武也氏に丁寧な説明を頂きました。平成24年から準備が始まり、平成25年4月から運用が開始されました。同年10月に第1次認証事業所認定を29事業所が受けました。認証制度は段階的に作られており、「宣言事業所」「認証事業所」「上位認証事業所」の3つである。平成30年4月現在「宣言事業所」は600事業所、「認定事業所」は269事業所、そのうちの7事業所が「上位認証事業所」となっています。認証の基準は、4つのカテゴリーに17の基準でできています。4つのカテゴリーについて言えば、①新人教育が充実しているか、②未来を描ける職場か、③社員を大切にできる職場か、④外部との交流に積極的か、です。「同和園」は、それぞれに具体的な取り組みを実施され、見える化に努めておられました。福祉人材の新卒者の獲得にもこの認証制度は力を発揮したそうです。

それから、研修前からお願いしていた「コミュニケーションツールの導入」についても、説明を頂きました。業務の省力化、新人教育、気軽な相談体制の整備ができたインカムの導入でした。現場の職員全員がインカムをつけて仕事をしています。施設見学からもその様子を見せてもらいました。「全員がインカムをつけることだけは、トップダウンでの指示であった。」との説明を聞いて、うなづきました。

2日目は、「社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋」の地域密着型総合ケアセンターきたおおじにお邪魔し

ました。ここでは、山田尋志理事長の「きょうと福祉人材育成認証制度」の全体の経過をお話いただきました。若い人が、福祉の職場に目が向きやすくするために、見える化に努め、京都府知事が認証する。などの分かり易さがありました。また、事業所側に対しても、一定の水準は必要であるが、高すぎると一部の事業所だけのものとなり、意味がなくなる。「その水準を超えられない事業所はふるい落とすのではなく、超えられるように後押しをする。」引っ張り上げることが必要であるとも考えられたそうです。

それから、この法人は、中小法人によるグループ化を進めていらっしゃいます。1法人1施設等の規模では、福祉介護職員の確保・定着、地域展開に課題があり、厳しい経営環境に立ち向かうための機能強化も必要となります。そこで、グループ法人を設立したそうです。ここ「きたおおじ」を、グループ化を目指す7つの法人の本部と位置づけられました。

2つの法人の、先駆的な取り組みに、ずーっと感心ばかりをしていた2日間でした。

この場をお借りして、社会福祉法人同和園様と、リガーレ暮らしの架け橋様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。（いづテラス施設長）



平成30年度老施協活動報告

☆印は予定

【老施協】

★30年12月6日 第3回理事会

【協議事項】

全国老人福祉施設協議会代議員選挙への対応、第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会について

【報告事項】

介護の日の啓発活動の実施状況、防災対策の取組状況、支部及び各委員会の活動状況

☆31年2月7日 事業推進検討会議 31年度計画

☆31年3月7日 第4回理事会 定例総会運営進行の確認

☆31年3月19日 第2回総会 平成31年度事業計画（案）、一般収支予算（案）

【企画経営委員会】

★30年9月25日 第5回委員会

各チーム活動状況（調査研究：介護現場における人材に関するアンケート調査進捗状況等、要望：県との懇談会の状況等、ネットワーク：関係先との調整状況等）

★30年11月13日 第6回委員会

各チーム活動状況（介護現場における人材に関するアンケート調査の公表等）、県老施協における課題と今後の方向

【広報委員会】

★30年11月6日 第4回委員会

しず老施協第54号の企画、ホームページの充実に向けた検討について

【研修委員会】

★30年9月6日 第3回委員会

平成30年度活動状況、介護力向上研修、人材育成研修会、
県外研修について

★30年10月5日

介護力向上研修 静岡県総合社会福祉会館7階会議室

★30年10月19～20日

県外施設視察研修 京都市 きょうと福祉人材育成認証制度
ほか

★30年10月24日 アクトシティ浜松

11月9日 特別養護老人ホームさつき園（長泉町）
人材育成研修会『「承認マネジメント」～「認めること」を
核としたマネジメント教育を身につけよう!!』

＊講師 ふくしえん社労士事務所代表 後藤功太氏

★30年11月20日 第4回委員会

平成30年度活動状況、平成31年度活動計画について

【21世紀委員会】

★30年9月20日 第4回委員会

平成30年度事業内容、奨学金返還者への助成制度について

★30年10月30日 第5回委員会

平成30年度事業内容について

★30年11月10日 介護の魅力増進セミナー 静岡北高校

★30年11月17日 介護の魅力増進セミナー 浜松修学舎高校

★30年12月13日 介護の魅力増進セミナー 静岡県立大学
短期大学部

【養護委員会】

★30年12月6日 臨時養護委員会

措置権者の市町に対する要望書、県福祉長寿局との懇談会報
告について

【特養委員会】

★30年10月18日 第3回委員会

調査事業（介護報酬改定後の加算取得状況調査結果、待機・
入所状況調査結果）、研修事業について

【地域ケア委員会】

★30年9月7日 第3回委員会

調査事業について

★30年12月19日 第4回委員会

地域包括支援センター及び地域包括ケアに関する実態調査、
現状報告と今後の対応について

【第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会実行委員会】

★30年11月22日 第2回委員会

役員構成・実行組織と役割分担、当日の役割と作業内容、大
会テーマ・アトラクション等、大会経費の項目・使途、今後
の準備スケジュールについて

第55回 関東ブロック 老人福祉施設研究総会（静岡大会）開催案内

メインテーマ 「未来へつなぐ 福祉の心」 ～育てよう にっぽんの介護力～

期 日 2019年9月26日（木）～27日（金）

会 場 アクトシティ浜松

ホテルクラウンパレス浜松

日 程 9月26日（木）

○全体会：式典・記念講演・他

9月27日（金）

○分科会：県内外から42題の研究発表

両 日

○福祉機器展示会



編集後記

DA PUMPが再ブレイクした理由につ
いての記事を読みました。『(中略)「売れる」
ためには、「おもしろい」と思ってもらう、
つまり「感動」を与えることだ。感動の伴
わない技術は、いくら本人たちが「すごい
んだぞ!」と意気込んだところで、受け入
れてもらえない。つまり、売れない。感動
を与えるための一手段として高い技術があ
る。その高い技術も、人知れずさりげなく
使ってこそ、さらなる感動につながる。』
感慨深い記事でした。(安河)

広報委員会では、HPのリニューアル
に取り組んでいます。私の施設でも
リニューアルをおこない、とにかく知
名度を上げようと地域イベント、ス
ポーツ大会にそろいの白扇閣Tシャツ
を着て参加。そのかいあって、今年4
月の新卒採用は過去最高となりました。
やっぱり、「ご利用者と職員は「足
で稼ぐ」。今年も、走り続けます。

(久保田)

「人生100年時代」と言われる今日この
頃。振り返れば、「還暦」には、前職で職
員が朝から全員赤のTシャツを着て出勤。
みんなで記念写真を撮って祝ってくれまし
た。今でも大切に飾ってあります。そして、
「人生七十古来稀なり」。そろそろ近づい
てきました。長生きするには健康で元気に明
るくいなければなりません。孫の成長、家
族の幸せも祈りつつ、楽しい人生を送りた
いと願っています。(兼子)